つんのーで！

佐世保市立中里中学校
学校だより　第２３号
文責　校長　川　口　貴　晴
令和７年９月１８日（木）発行

【学校教育目標】　「自ら学び、考え、行動し、自ら『生きる力』を培う生徒の育成」
【めざす学校の姿】「生徒が通いたくなる学校」「保護者が子どもを通わせたくなる学校」
「地域が自慢したくなる学校」「教職員が勤めたくなる学校」
【めざす生徒の姿】「愛（合い）のある生徒」
～支え合い、学び合い、磨き合い、高め合い、励まし合い～
【めざす教師の姿】「時代・社会の要請を理解し、自らの教師力・人間力を高める教師」
【めざす授業の姿】「生徒の主体性・確かな学力・生きて働く力を育む授業」

おはようおじさん！

上に示した碑は、私の母校である平戸市立津吉小学校の校門をくぐったところに置かれています。

この碑は、かつて平戸市津吉町の事業所に赴任され、毎朝自宅の前に立って登校する子どもたちに素敵な笑顔と明るいあいさつを贈り続けた「おはようおじさん」こと、故 角田実（つのだみのる）氏をたたえ、建立された碑です。

「おはようおじさん」は、赴任当時に毎朝登校する子どもが元気いっぱいにあいさつする姿を見て、自分も何かできることがあればと毎朝のあいさつを始められたそうです。そして、いつしか子どもだけではなく、地域の人々にあいさつの大切を教え、町の人に「おはようおじさん」として親しまれました。数年の長きにわたって活動を続けられ、地元の長崎市に戻られてからもことあるごとに、平戸を訪れ、親交を深められました。私も成人式に「あいさつの三徳」が印字された記念品をいただきました。碑には、「おはようおじさん」の教えが次のように刻まれています。

あいさつの三徳

あいさつには三つの徳がある

気持ちのよいあいさつは相手の心を明るくする
気持ちのよいあいさつをする人は誰からも好かれる
気持ちのよいあいさつをすれば自分の心も豊かになる

今更ながら心に響く言葉ばかりです。

さて、本校の「あいさつ事情」について、ちょっと考えてみましょう。

今、本校では「明るく、元気なあいさつ」ができていますか？答えは、「・・・」です。朝の横断歩道で、何度か注意した生徒も少なからずいます。ボランティアの方々が「おはよう」と言ってもお返しのあいさつも会釈さえしない生徒もいます。なんとも悲しい話です。本来なら生徒から先に「おはようございます！」という相手を元気にさせるくらいのあいさつをするものだと思いますが、そうではありません。ボランティアの方々にとって、児童生徒が元気に登校する姿や、明るいあいさつこそがボランティアを続けておられる活力、原動力なのではないかと思います。当然、しっかりと自分からあいさつをする生徒もたくさんいます。嬉しいのは、前を向いている背中に向かってあいさつをしてくれる生徒もいることです。そんなときは、本当に心が弾みます。

私の願いはいくつもありますが、そのうちの1つが、「明るく、元気な、さわやかなあいさつが飛び交う学校」です。こんなあいさつが交わされる学校は、活力がありとても素敵です。

過去に勤務した学校で「おさかなあいさつ」という取組を始めました。それは、あいさつは、**「お」＝大きな声で、「さ」＝（相手より）先に、「か」＝顔を見て、「な」＝名前を呼んで、**という取組でした。その効果もあってか、校内だけではなく校外など、いろいろな場面で明るく元気なあいさつが交わされていました。私も、生徒に負けないように「先に」あいさつをしました。それは、今も続けています。どうぞ生徒の皆さんも私の「先に」に負けないようにしてみませんか。**私も負けないようにさらに頑張ります！**

職場体験学習が始まりました！

９月17日(水)～19日(金)まで、2年生が職場体験学習を行っています。

中里・皆瀬地区を中心とした31か所の事業所、店舗、保育施設などでお世話になります。職場体験学習は、働くことの意義や大変さ、そして大切さと感謝の思いを学ぶ貴重な機会です。このような貴重な体験の場を提供してくださった多くの事業所、店舗等の皆様に心から感謝申し上げます。生徒は、今回の職場体験学習に向けて調べ学習をしたりマナー講座を受講したりしてたくさん学んできました。事業所等へのアポイント電話も緊張しながら行いました。

保護者・地域の皆様のお近くの事業所や店舗などで頑張っている本校生徒の姿を見かけられましたら温かいお声かけをお願いします。また、店舗などで慣れないことばかりで、皆様にご迷惑をおかけすることもあると思いますが、どうぞ温かい目で見てあげてほしいと思います。

2年生の生徒が、3日間の体験学習を終え、今以上に心身ともに成長した姿を楽しみにしています。

野外学習に行ってきます！

明日9月19日(金)に、1年生が野外活動として世知原少年自然の家に行きます。野外炊さんでのカレー作りや沢登りなどを行います。学校を離れて、豊かな自然の中での体験を通して、協力することや工夫すること、そして不便な環境でちょっとだけ我慢することなどを学びます。火起こしから始める炊さん活動では、包丁やなたなどを握る機会もあります。そのような体験が初めてという生徒はいないとは思いますが、安全面に十分に配慮して、楽しく充実した体験活動になるようにしてほしいと思います。

今回の体験を終えて家に帰ったら、じゃがいもや人参の皮むきが大得意になっているかもしれません。どうぞお家でも料理のお手伝いをさせてみてください。**それが「学び」の発信です！**

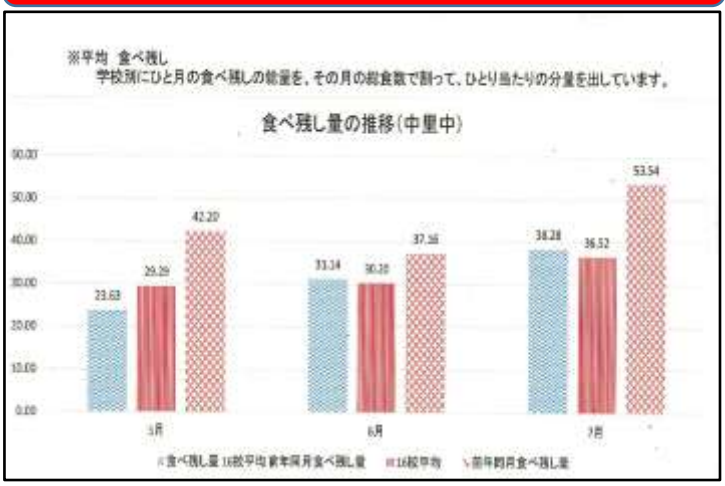
県立大学生が来校しています！②

前号で長崎県立大学佐世保校のインターンシップ/学習支援ボランティア生について紹介しました。今号では、さらに2人の紹介をします。学校生活のいろいろな場面で皆さんと関わることがありますので、早く名前と顔を覚えてくださいね。よろしくお願いします。

長崎県立大学から参りました、公共政策学科1年の小西綾花です。中学・高校の社会科の教員になることを目指して、現在大学で学んでおります。初めての学校インターンシップで、かなり緊張していましたが、中里中学校のみなさんのあいさつの声の大きさにとても元気をもらい、初日でもとても楽しく学ぶことができました。これからみなさんと共に学び、成長していきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

学習支援ボランティアという活動でお世話になります県立大1年の宮川夏希です。将来教員を目指しており、このような機会をいただけたことを嬉しく思います。生徒の皆さんの役に立てるよう、向上心を持って頑張ります」よろしくお願いします。

残食がどんどん増えています



これは、本校の給食の食べ残し量（残食量）の推移を示したものです。グラフの左端（青）が本校のデータ、真ん中（赤）が市内中学校の平均値、右端（ピンク）が昨年度の本校のデータです。昨年度の後半から徐々に残食量が減少し、喜んでいたところですが、今年度になって少しずつ残食量が増えています。給食はエネルギー量も栄養価も中学生年代に必要な量を計算してつくられてます。残食量もですが、偏食も気になります。中学時代はどんどん食べて、どんどん学習・運動をして心身ともに成長させる大切な時期です。

どうぞ自分の食生活について見直してみませんか。